

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400032
法人名	株式会社 たかちほ
事業所名	グループホーム明浜館
所在地	愛媛県西予市明浜町高山甲688番地
自己評価作成日	平成 24年 6月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 7月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

口からしっかり食べる。しっかり出す。よく笑う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな入江の集落に立地し、南欧風にデザインされた外観の事業所である。一見すると地域と距離があるように見えるが、管理者や職員の地域への関わりがその距離を無くしている。開設から5年目となり利用者の高齢化や介護度も高くなっており、事業所で最期を望む利用者と家族が多い。地域の実情をよく理解し、在宅医療に力を入れている協力医のもとターミナルケアを実践している。普段から丁寧で質の高いケアが行われ、家族からもねぎらいの言葉があり、地元に着している事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

事業所名	グループホーム明浜館
(ユニット名)	北ウイング
記入者(管理者)	
氏名	土居 京子
評価完了日	平成 24 年 6 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員会議等で機会があるごとに、理念を唱え、その内容に沿った介護ができているか話し合っている。</p> <p>(外部評価) 職員は常に理念を念頭に置いている。利用者のケアで行き詰った時は、その都度理念に立ち返り職員間で話し合い実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 馴染みの美容院を利用してもらったり、地元の文化祭、お祭りなどがある時は、見物に行っている。また、小学生や婦人会に訪問してもらい交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 事業所は入江の集落を見下ろす高台に立地し、お隣さんという感覚で付き合うことが難しい。そのため積極的に出かけて地域住民との交流に努めている。職員が地元のものであることも地域との距離を近づけている。管理者は事業所の役割を地域に分かってもらえるよう努めている。</p>	地域との交流をさらに深めて、事業所の専門性を地域で活かせる関わり方に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 婦人会等の訪問時に認知症についての勉強会を開いて、理解してもらえるように努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の状況や、行事報告だけでなく問題点、自己やクレームの発生があった時はすべて報告し、色々な意見をいただき参考にしている。 推進委員さんより、行事の情報をいただき、地域との交流につなげる努力をしている。	
			(外部評価) 議事録から、地域の委員からの相談が徐々に増えていることが分かる。事業所は地域に信用され、会議が地域との結びつきに上手く活用されている。家族の参加や意見等も活発で、利用者のサービス向上につながっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議には、充分時間をとり、細かく報告をしている。 又、市、県から情報も伝えてもらう。	
			(外部評価) 本庁の職員には会議や報告会等で事業所の運営や利用者の状況について相談や報告を行っている。事業所近くの支所の職員とも交流を図るよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠はやんかのみで、日中の出入りは自由とし、帰宅願望の強い時は、落ち着くまで付き添い歩くこととし、他の拘束もしないよう心掛けているが、歩行困難で転倒、ケガの危険が考えられる場合は、家族に説明、了解を得た上で床においてもらうなどの対応を行っている。	
			(外部評価) ベッドのサイドレールも身体拘束になると判断し活用しないケアを行っている。転落の危険性がある場合は、マットを敷いたり、布団に切り替えたりしている。利用者の人権を重視したケアに職員一同で日々取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての研修に参加して、職員会議で研修報告をして、全員で学び、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 活用していない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 理解をしてもらっている。 入居時、管理者が説明した上で契約をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 推進会議や家族交流会でご家族の意見を伺っている。 普段の面会時の会話の中からも要望的な話題が出れば報告をしている。 (外部評価) 家族や職員は地元出身者が多く、言葉一つで分かりあえる関係にあり、面会や連絡、家族の出席が多い運営推進会議など、様々な機会を利用して意見や要望をもらい、運営に反映させるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1度の職員会に事務長も同席してもらい対応する。事務長や管理者から代表者に対応してもらっているが、運営に関する提案は出ていない。	
			(外部評価) 管理者と新人、中堅職員など現場の指導を通して1対1の会話の機会も多く、管理者等は職員の意見をよく聞いており、運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 努めている。 介護福祉士やケアマネの資格取得は頑張ってもらいたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ネットワークづくりの取り組みは、行っていない。 研修の場での交流を図れるように心掛けている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の不安を取り除き、職員や他の利用者と打ち解けることができる様な言葉かけを心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が打ち解けてこられた時の要望をしっかり受け止めている。 不安材料を伝えるのではなく、安心して話しあえる関係づくりを心掛ける。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 沢山伺うのではなく、一番不安な事を一つ聞いていきます。 それが、解消できていく段階で総合的にどう支援するか相談しながらすすめる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 名前を呼んでもらうことはありませんが、「コレコレ」「コラー」「ちょっと」「あんたー」すぐにももらえるいい関係になっています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 週に何度も来られる方、年に数回の方、様々です。 月に一度は手紙を書き、写真を入れて近況報告をしています。時代でしょうか、携帯からのメールも増えてきました。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 途切れないよう支援していますが、認知症が進むと相手の方が戸惑う事も出てきました。 全てを理解してもらえば続けた方がいいのですが、少し考えたり家族に相談する事もあります。 (外部評価) 地元出身者が多いため、利用者は散歩や買い物に出るだけで馴染みの人と会うことができる。隣接しているデイサービス利用者とも交流できるように心がけて、日常生活の中で馴染みの関係を継続するように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒にテレビを観たり歌を唄ったり、会話をしたり風船バレー等行ってはいますが、時折険悪な場面もあり職員が間に入っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院されたり、他の施設へ入られてもこまめに連絡を取ったり、お見舞いを続けます。 参考になる事をお伝えしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 努めている。 ほとんど本人の希望は聞いている。	
			(外部評価) 利用者を理解することが重要であるとの共通認識があり、思いや意向の把握、生活歴などの聞き取りに力を入れている。申し送りノートや引き継ぎ時等で、全ての職員が情報共有できるよう努めている。	開設から5年目となり、職員間の情報を確認する時期であると思われる。職員一人ひとりが把握している利用者像を書きだし、全員で確認しあう取り組みに期待したい。文章化して共有することで、新たな利用者像の発見にも繋がりケアの質の向上が期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 毎月一度の職員会で、職員全員で話し合ったり、家族の方からも色々話を聞いたりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りの時や職員間の申し送りノートで、心身の状態の変化や過ごし方の把握をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 一人一人本人の状態に合った介護計画を立てる事が出来ている。	
			(外部評価) 利用者毎に担当職員がおり、利用者や家族の意向の聞き取りと日々のケアでの気づきを踏まえて、介護目標を立てている。ケア会議は月1回行われ、職員全員で話し合い介護計画が作成されている。	モニタリングを充実させるために介護目標の記録をデータ化し、計画の見直しの際に数値化された目標の達成率による分かりやすい評価をする取り組みに期待したい。客観性のあるモニタリングは課題の発見とケアの質の向上につながる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) その時の身体の状態だけではなく、精神面の状態についても記録している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 一人一人どの様にすれば、より良く生活を送ることが出来るのか考えながら、介助させて頂いている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 病院や理容・美容室だけでなく、地域の方々と関わりを大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の納得の上、病院受診を行っている。	
			(外部評価) 近所にある診療所の協力医はこの地区に定住し地域医 療に力を入れている。多くの利用者のかかりつけ医で もあり、利用者や家族の医療的な安心感が高い。専門 的な疾患等に関しては、専門医の指示を仰ぎ、家族と 連携しながら通院を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 医療機関には、すぐに連絡を行う様にしている。 週に一度は二人の看護師さんが来られ、変化がないか 診てもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 努めている。 良く出来ていると思う。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階から話しをお聞きすることもあるが、状態に よって家族の気持ちも変わるので、こまめに情報の交 換、連携をとる様にしている。	
			(外部評価) 利用者や家族等の最後まで事業所で暮らしたいという ニーズは高い。状況に合わせて十分な説明をし、ター ミナルケアに積極的に取り組んでいる協力医のもと支 援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 1年に1度、デイサービスの職員と一緒に消防署職員に来てもらって救急法を実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 自主避難訓練や、消防署立会いの訓練を行っている。津波、地震の勉強会を消防署職員より2回受ける。 (外部評価) 事業所は山の中腹に立地し、窓からはすぐ海が見えるため、公的機関の協力を得ながら災害対策や避難訓練を実施している。事業所の周りには住宅等がないため、緊急の場合は近隣住民の協力が得にくいので、対応策を職員間で話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 出来ていると思うが、まだ不十分なところもあるので、職員一同プライバシー確保について確認し合っています。 (外部評価) 職員は利用者に対し、親に対するような感謝の気持ちでケアを行うことが自然とできている。日々のケアの中で、声かけやトイレへの誘導などプライバシーに配慮しながら、利用者に寄り添うように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 大体出来ていると思う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出掛けられない方には、出張でパーマをかけてもらい、本人や家族からの要望を聞く。 (毛染め、好みのカット、出掛ける時の服選び)	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る人には声掛けし、一緒に準備、片付けをお願いする。 誕生日には、その人の好きな物を聞き、作ってお祝いしている。	
			(外部評価) 食事は季節感のある旬の食材を厳選し事業所で作っている。調理の音や匂いも利用者の楽しみとなっている。利用者は職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。食材や調味料を近隣の商店と契約し配送を依頼しており、事業所と地域との繋がりを深めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人に合った食事形態を提供する。 地元の物、旬の物等、季節を考えたメニューを心掛ける。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 支援し介助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は全員トイレでの排泄を支援している。 夜間のみ、立位ができない方、安眠の為にパット交換をする方が2名いる。	
			(外部評価) 介護度の高い利用者が多いが、「排泄はトイレで」という介護目標に沿ったケアが行われている。一人ひとりの排泄パターンを把握して、可能な限り自立に向けたトイレ誘導を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 本人の排泄パターンを尊重し、下剤使用も慎重にしている。 水分補給、牛乳、運動も取り入れる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 「入りたくない」という方を無理強いに入れることはないが、「あー、気持ち良かった」と言ってもらえたら最高だと思う。	
			(外部評価) 入浴の時間帯や回数は、できるだけ利用者の希望にあわせるよう努めている。立位や座位が難しい利用者にも2名介助で対応している。入浴が苦手な利用者にも、声かけなど工夫しながら入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 早く床につく方、遅くまでテレビを観る方、本人に合わせた。 起床も様々、朝ご飯が10時になる方、5時頃食べる方、個々に合わせている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬状表は一人一人の記録と一緒に綴じている。 医師の指示のもと確実に服薬してもらうこと。 その後どうなったか、経過、結果を報告し随時対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 気分転換の必要性をよみとる力をつける努力をしている。 スタッフの重いと違っていたら不穏を覚えます。 普通でいることの難しさも感じている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 声掛けに誘われ腰を上げる人、絶対に動かない人あり、個々に花見等に出掛けます。 (外部評価) 急な坂道があるため、普段の散歩ができる利用者は限られるが、事業所の庭は広く海が見渡せて、毎日心地よい外気浴ができる。遠出する時は家族にも協力をお願いしながら、外出が多くできるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理者が預かっている以外、自由に持ってる方は北館では現在ありません。 外出して買い物のできる方にはレジで支払ってもらいます。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎日電話がかかってお話される方もあります。 母の日に素敵なカードが届いたのですが、破かれたり、行方不明になったりと、やり取りは難しい状態です。一緒に読んでいます。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎月季節の花などを取り入れた手作りカレンダーを飾ったり、写真を掲示している。 廊下、玄関等に花を置いている。</p> <p>(外部評価) 広い食堂と広い廊下が繋がっており、廊下の所々にはデッキが配されて風や光を感じる快適な共用空間になっている。小上がりになっている畳スペースからも海が望める。左右に広がっている平屋の2ユニットへの廊下も長い。雨の日もちょっとした散歩が楽しめる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 特にはしていないが、隣のユニットの親しい人のところに付き添い話しをしてもらったりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) テレビ、ソファ、布団等持ち込まれている方がおられる。 持ち込まれる家族は少ない。</p> <p>(外部評価) ベッドとダンスは備え付けで、利用者は自分の生活スタイルに合わせた好みの家具や小物などを持ち込むことができる。レイアウトは利用者の自由で、居心地よく過ごせるように支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人一人の出来る事を見守りながら、支援している。 つい手を出し過ぎるところもある。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400032
法人名	株式会社 たかちほ
事業所名	グループホーム明浜館
所在地	愛媛県西予市明浜町高山甲688番地
自己評価作成日	平成 24年 6月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 7月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

口からしっかり食べる。しっかり出す。よく笑う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな入江の集落に立地し、南欧風にデザインされた外観の事業所である。一見すると地域と距離があるように見えるが、管理者や職員の地域への関わりがその距離を無くしている。開設から5年目となり利用者の高齢化や介護度も高くなっており、事業所で最期を望む利用者と家族が多い。地域の実情をよく理解し、在宅医療に力を入れている協力医のもとターミナルケアを実践している。普段から丁寧で質の高いケアが行われ、家族からもねぎらいの言葉があり、地元に着している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム明浜館

(ユニット名) 南ウイング

記入者(管理者)

氏名 土居 京子

評価完了日 平成 24 年 6 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 月1回会議の際、理念を唱え、各自の個々の目標も発表し、実践できているか、また反省点などを話し合い実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 職員は常に理念を念頭に置いている。利用者のケアで行き詰った時は、その都度理念に立ち返り職員間で話し合い実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事への参加を出来る限り支援している。買い物に立ち寄れば、お喋りもしてもらう。</p> <p>(外部評価) 事業所は入江の集落を見下ろす高台に立地し、お隣さんという感覚で付き合うことが難しい。そのため積極的に出かけて地域住民との交流に努めている。職員が地元のものであることも地域との距離を近づけている。管理者は事業所の役割を地域に分かってもらえるよう努めている。</p>	地域との交流をさらに深めて、事業所の専門性を地域で活かせる関わり方に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の独居の方、(認知症)にはこちらから声掛けをし、馴染みの関係ができた。婦人会の方々に認知症について話をした。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回推進会議を実施し、地域の方々（老人会長、市役所、議員、婦人会など）と利用者も参加し、いろいろな意見交換をしている。	
			(外部評価) 議事録から、地域の委員からの相談が徐々に増えていくことが分かる。事業所は地域に信用され、会議が地域との結びつきに上手く活用されている。家族の参加や意見等も活発で、利用者のサービス向上につながっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議には必ず出席していただき、近況報告を細かく説明している。 市町村の連絡会にも参加をし、相談員さんも年6回来所してもらう。	
			(外部評価) 本庁の職員には会議や報告会等で事業所の運営や利用者の状況について相談や報告を行っている。事業所近くの支所の職員とも交流を図るよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。 夜間のみ、施錠している。	
			(外部評価) ベッドのサイドレールも身体拘束になると判断し活用しないケアを行っている。転落の危険性がある場合は、マットを敷いたり、布団に切り替えたりしている。利用者の人権を重視したケアに職員一同で日々取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修等に積極的に参加し、職員会議にて報告し合い、話し合いをし、より良い環境作りに励み、万全の注意を払い努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) その時々管理者と話し合い、活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 理解をしてもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 推進会議や家族交流会で、ご家族の希望、要望等の意見を伺っている。	
			(外部評価) 家族や職員は地元出身者が多く、言葉一つで分かりあえる関係にあり、面会や連絡、家族の出席が多い運営推進会議など、様々な機会を利用して意見や要望をもらい、運営に反映させるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会議にて、意見を発表したりして管理者との意見交換をしている。	
			(外部評価) 管理者と新人、中堅職員など現場の指導を通して1対1の会話の機会も多く、管理者等は職員の意見をよく聞いており、運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者から報告をしている。 やりがいのある職場になるよう努力してもらっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修時に交流をしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の不安を解消できるように、ご家族から情報をいただき、意志表示が難しい状態でも、細かい仕種等、見過ごしのないよう注意する。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の来訪時には、不安、要望等お聞きしたりして、絆、信頼関係を深める様になっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の意思や家族の意向を尊重し、対応に励んでいる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る事、出来ない事の見極めを行い、出来ないところに手を差し伸べ、関係作りを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 気軽に相談や話しが出来る様、又信頼関係が築ける様努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事等への参加、又ホームの行事へは地域の方を招いている。	
			(外部評価) 地元出身者が多いため、利用者は散歩や買い物に出るだけで馴染みの人と会うことができる。隣接しているデイサービス利用者とも交流できるように心がけて、日常生活の中で馴染みの関係を継続するように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が上手く会話が出来たり付き合えるよう職員が間に入っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 努めている。入院で退所となられた方等、病院近くのスタッフ（1名）が、とても気配り、配慮され、足を運んでもらい、本人や家族の支援に努めて頂く。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 希望を表現出来ない方もいるので、本人の発言、表情等により模索して、楽しく生活して頂ける様、職員間で検討している。	
			(外部評価) 利用者を理解することが重要であるとの共通認識があり、思いや意向の把握、生活歴などの聞き取りに力を入れている。申し送りノートや引き継ぎ時等で、全ての職員が情報共有できるよう努めている。	開設から5年目となり、職員間の情報を確認する時期であると思われる。職員一人ひとりが把握している利用者像を書きだし、全員で確認しあう取り組みに期待したい。文章化して共有することで、新たな利用者像の発見にも繋がりケアの質の向上が期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、本人の会話の中できっかけを見つけ、面会時等に家族に尋ねてみたり、又本人や家族の方より話しをしやすい様ななじみの関係を築くよう努める。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人のペース、状態に合わせて過ごしてもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員会議で一人一人の現状態に於いての介護計画を作成している。 本人、家族の希望も尋ね、出来ることは取り入れて支援している。 (外部評価) 利用者毎に担当職員がおり、利用者や家族の意向の聞き取りと日々のケアでの気づきを踏まえて、介護目標を立てている。ケア会議は月1回行われ、職員全員で話し合い介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の個別の記録をし、朝夕の職員間の申し送りにて、全員が把握出来る様心掛けている。 申し送りノートもずっと活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限りその時々々のニーズに応えられる様努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 保育所、小学校、婦人会等の訪問を受け、笑顔のある生活を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月に1回は、かかりつけ医の方へ定期受診に行き、ま た状況に応じて、本人や家族が希望する医師による医 療を受けられるように支援している。	
			(外部評価) 近所にある診療所の協力医はこの地区に定住し地域医 療に力を入れている。多くの利用者のかかりつけ医で もあり、利用者や家族の医療的な安心感が高い。専門 的な疾患等に関しては、専門医の指示を仰ぎ、家族と 連携しながら通院を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日のバイタルチェック、食事量、排泄チェック等の 他に日常（普段）と変化が見られたり、気づきがあっ た場合は申し送りをするが、緊急の場合はかかりつけ 医に連絡（相談）し指示をあおぐ。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 家族や主治医と相談し合い、スムーズな対応を心が け、安心して治療に専念できるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末支援の対応についても、段階ごとに家族の意向を 確認しながら、医療関係者等と連携を計り、職員全員 で支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族等の最後まで事業所で暮らしたいとい うニーズは高い。状況に合わせて十分な説明をし、ター ミナルケアに積極的に取り組んでいる協力医のもと支 援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 西予市消防署の協力のもと、定期的に応急手当（初期対応）や救急法を実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 西予市の消防署、及び南予防災の非難訓練や非常時の通報の仕方等の指導を受け、地元の消防団、又地域との協力をお願いしている。 (外部評価) 事業所は山の中腹に立地し、窓からはすぐ海が見えるため、公的機関の協力を得ながら災害対策や避難訓練を実施している。事業所の周りには住宅等がないため、緊急の場合は近隣住民の協力が得にくいので、対応策を職員間で話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ時の声掛け、誘導等に特に注意を払っている。 (外部評価) 職員は利用者に対し、親に対するような感謝の気持ちでケアを行うことが自然とできている。日々のケアの中で、声かけやトイレへの誘導などプライバシーに配慮しながら、利用者寄り添うように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の意向、体調等から判断し、無理のない参加を心掛けている。 意志疎通困難な方は、表情を読み取り尊重する様心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の流れに沿い、その人らしく過ごせる様、無理強いせずいろんな事に参加して頂き、支援をしながら安全な1日を送ってもらおう。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人希望の美容室への送迎。選べる方は、入浴時等の洋服選びをしてもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理のできる人はいないが、片付けは男の方もまじり、お膳拭きや食器拭きをして頂いている。	
			(外部評価) 食事は季節感のある旬の食材を厳選し事業所で作っている。調理の音や匂いも利用者の楽しみとなっている。利用者は職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。食材や調味料を近隣の商店と契約し配送を依頼しており、事業所と地域との繋がりを深めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分補給に気をつけ、利用者一人一人に合った食事を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) うがいの出来ない方（誤嚥含む）はウエッターで拭き取り、歯のない方はうがいをしてもらい、入れ歯の方は外して洗ってもらったり支援したり、自分の歯の方は歯磨きしてもらおう様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 夜間オムツ使用の方も、日中は紙パンツを使用して頂き、一人一人の排泄パターンを把握し、トイレで気持ちの良い排泄を支援している。	
			(外部評価) 介護度の高い利用者が多いが、「排泄はトイレで」という介護目標に沿ったケアが行われている。一人ひとりの排泄パターンを把握して、可能な限り自立に向けたトイレ誘導を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物（ヨーグルト、ビール酵母）使用し、水分摂取量に気を付け、棟内歩行や散歩等の付き添い支援をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調を見ながら、ご本人の能力に合わせて介助を行っている。 日勤帯の時間に入浴をしてもらっている。 希望によっては、毎日入浴してもらっている。	
			(外部評価) 入浴の時間帯や回数は、できるだけ利用者の希望にあわせるよう努めている。立位や座位が難しい利用者にも2名介助で対応している。入浴が苦手な利用者にも、声かけなど工夫しながら入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の体動を増やし、安眠出来る様、心掛けている。 居室にて、休息を取られる方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 随時、処方箋を確認出来る様にしている。薬の準備の際は、夜勤、遅出と2度確認し、間違わない様にしている。 服薬時も見守りをしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に合った手伝い等強要する事なく、お手伝いしてもらっている。 食器拭き、洗濯物たたみ、牛乳パック切り、モップかけ等。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近くまでの散歩、ドライブ、お花見、地域の祭り、花火大会等への参加。	
			(外部評価) 急な坂道があるため、普段の散歩ができる利用者は限られるが、事業所の庭は広く海が見渡せて、毎日心地よい外気浴ができる。遠出する時は家族にも協力をお願いしながら、外出が多くできるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お預りしているお金は、家族の了解を頂き管理している。 お小遣いを持たれている方は、時々買い物の支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 届いた葉書等は、一緒に読んでいるが返信は難しい。 電話を掛けられる場合は見守りし支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日の掃除で清潔さを保ち、カーテン、ブラインド、エアコン等の使用にて不快や刺激がないように配慮している。 季節の行事や花等で、壁画を利用し季節感等を味わってもらえるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 広い食堂と広い廊下が繋がっており、廊下の所々にはデッキが配されて風や光を感じる快適な共用空間になっている。小上がりになっている畳スペースからも海が望める。左右に広がっている平屋の2ユニットへの廊下も長い。雨の日もちょっとした散歩が楽しめる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 居間に腰を掛けられたり、二人掛けのソファに座ってくつろがれたり、お話しされたりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人と家族の話し合いで、テレビや家具類を持ち込まれている。</p> <p>(外部評価) ベッドとダンスは備え付けで、利用者は自分の生活スタイルに合わせた好みの家具や小物などを持ち込むことができる。レイアウトは利用者の自由で、居心地よく過ごせるように支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) できている。 その時々に応じて工夫している。</p>	